

## 校内研修推進計画

### 1 研究主題と主題設定の理由

#### (1) 研究主題

自信を持って生き生きと活動する子  
楽しいコミュニケーション活動を通して

#### (2) 主題設定の理由

平成17年度から20年度まで4年間積み上げてきた英語活動を、昨年度は津市の「小学校英語いきいき実践研究事業」の委託を受け継続してきた。また、英語活動で培った「コミュニケーション力」を日常生活に活かしていこうと、教科学習や学級活動などで取り組んだ。そして、各学年の担任だけでなく専科や特別支援学級も含め、全員が研究授業を行った。授業内容を「英語活動」と限定しなかったため、国語や理科など様々な教科の授業での「コミュニケーション力」についてみんなで考えることができた。

授業の中では、グループや班などで話し合う機会を多く持ち、また調べ学習を行ってその後発表会をするなど、機会を捉えてコミュニケーション力を育てるための取り組みを行った。授業以外では、朝のスピーチや縦割り班活動、学活などでコミュニケーション力をつける機会を積極的に作っていくようにした。

安東フェスティバルでは、全学年が英語表現を取り入れた発表を行った。児童による司会も、英語と日本語の2カ国語で行った。保護者や地域の方々に見ていただくなかで自分の役割を果たし、発表することで、大きな自信をつけることのできる場となった。

しかし、英語活動のなかで自然にあいさつができるようになってきている子どもたちも、日常生活のなかではなかなかあいさつができない。聞く力を育てようと前年度に引き続き取り組んできたが、授業中だけでなく集会活動など聞く力が十分に子どもたちについたかと考えるとまだ不十分である。

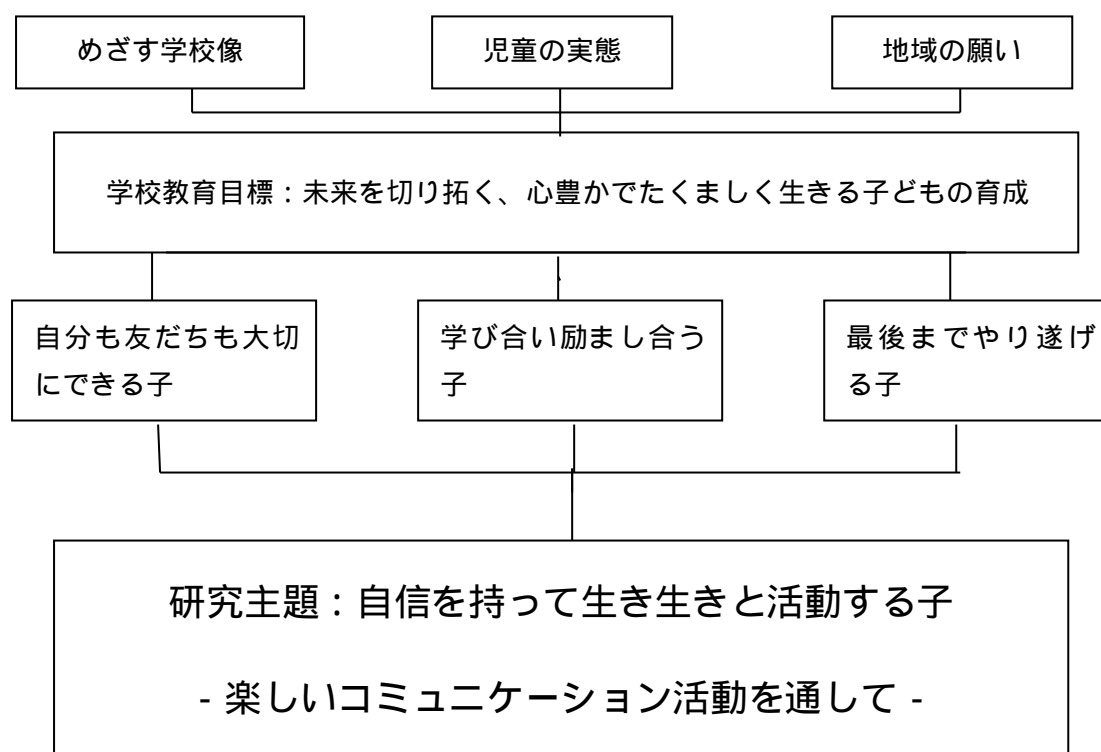
また、発表や司会など事前に決められた内容については自信を持って言うことはできても、自然な会話の中や授業中の発言など、自分で考え自信を持って言えるようになったわけではない。

このような経緯をふまえ、本年度も昨年度に引き続いて、「自信を持って生き生きと活動する子」楽しいコミュニケーション活動を通して を主題として、研究を継続していくこととした。

具体的には、「基本となる学級づくり」「聞く力を育てる場、高学年の主体的な活動の場の設定」「英語活動の計画、題材設定」「担任一人でする英語活動」「SSTメソッドの活用」「英語活動と日常のコミュニケーション」等を柱として研修を進めていく。

また、コミュニケーション力とは何か、真に子どもたちにつけたい力とは何か、昨年度までの研修からさらに焦点化して研修を行っていきたい。

## 2 研究の構想



研究でめざす子ども像	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちに進んで関わろうとする。</li> <li>・ 自分の思っていることを話したり、友だちの話すことを最後まで聞いたりする。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から進んで活動に参加することができる。</li> <li>・ 友だちの話をよく聞いて、自分の考えを話すことができる。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちと協力しながら、生き生きと活動することができる。</li> <li>・ 様々な方法で、自分の考えや思いを自信を持って表現することができる。</li> </ul>
あんとう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るく元気に、のびのび活動する。</li> <li>・ 自分の思いや考えを相手に伝えることができる。</li> </ul>

### 3 コミュニケーション活動のねらい

授業におけるねらい

児童会活動等、学校生活全般におけるねらい

英語活動におけるねらい

学年部のねらい	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで話したり聞いたりする態度を身につける。</li> <li>・友だちと仲良く活動に参加する。</li> <li>・英語の時間を楽しみ、ALT や友だちと英語で触れ合う。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いのルールを守り、進んで授業に参加しようとする。</li> <li>・話をよく聞いて、活動に参加する。</li> <li>・英語のゲームや会話などを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じ、適切に話したり聞いたりすることができる。</li> <li>・学校のリーダーとしての自覚を持ち、自分の思いをはっきりと述べることができる。</li> <li>・英語の表現に慣れ親しみ、身近なことや自分のことを聞いたり話したりできる。</li> </ul>
あんとう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話をよく聞き、自分の言いたいことを進んで伝えようとする。</li> <li>・友達の話すことやすることをよく見聞きして、進んで活動に参加する。</li> <li>・英語の歌や表現に親しみ、のびのびと活動する。</li> </ul>

### 4 具体的な研修の柱

#### (1) 各教科・領域で育てるコミュニケーション

子どもたちが学校生活の中心となるのは「授業」である。そこで、日々の授業の中で、子どもたちのコミュニケーション力を高めるような取り組みをおこなう。コミュニケーションを意識した授業だけではなく、あいさつなど日常のコミュニケーションの方法や、話を聞くときのマナーなども繰り返し指導していく。

#### (2) 楽しい英語活動

##### ・楽しいコミュニケーション活動の具体化

楽しい英語活動のなかで、smile, eye contact, clear voice, big voice 等の態度を意識させたり、Thank you. / You are welcome. Here you are. / Thank you. 等の人と関わる上での大切な言葉を口に出して言わせたりしていく。英語を使って繰り返し聞いたり話したりすることで、コミュニケーションの基礎を身につけさせていきたい。

##### ・発達段階に応じた題材構成の工夫

児童の発達段階や興味・関心をよく把握して、題材や活動計画を考えることで、子どもたちの意欲・態度が大きく高まるであろうと考える。5, 6年生については英語ノートを参考にし、本校の児童の実態と照らし合わせながら指導を進めていく。1～4年については主な表現や単語などをま

とめた資料を作成し、それを参考にしながら、今年度の担任が授業を計画し進めていく。

・担任一人で行う英語活動

昨年度、はじめて担任一人で行う英語活動を実施した。本年度も新学習指導要領「外国語活動」の完全実施を見据え、担任一人で行う英語活動についての研修を継続し進めていく。

・A - タイムと SST メソッド

朝の始業前の10分間を「ANTO」の「A」をとって「A - タイム」と名付けている。この時間は、「SST メソッド」を行う時間とする。「SST メソッド」は、「SOUND（音）を SHOWER（シャワー）のように浴びせる TECHNIQUE（技術・方法）」という意味で、兵庫県の「まねび学園」（境山哲夫氏）において開発されたものであり、全児童がテキスト教材を持ち、使用する。

（3）児童会活動等の活性化

児童会と連携して、児童集会、各委員活動、縦割り活動などの機会を利用し、英語活動で培った表現力やコミュニケーション力を活かす場としていく。また、その他のいろいろな行事のめあてに、「コミュニケーション活動」に関わるめあてを入れ、行事後に反省する。

（4）発表の機会

安東フェスティバルの Kids Assembly では、各学年に応じて、コミュニケーション活動に関する発表を行う。全校児童、保護者をはじめ、地域の人にも広く発表する場となる。子どもに満足感を与え、今後の活動に自信が持てるよう、十分に準備、計画する。

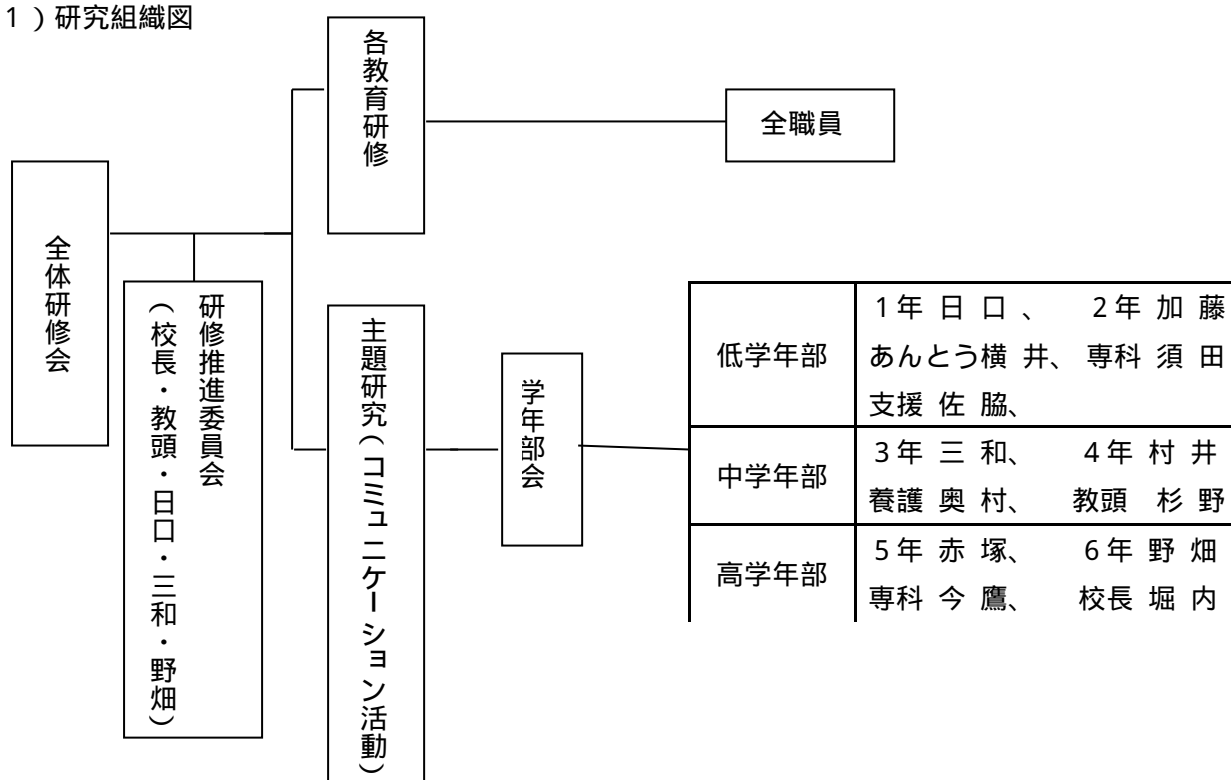
また、前述の児童会との連携による活動も児童の発表の機会と捉え、特に高学年の児童たちが安東小学校のリーダーとして、自信を持って活躍できるように指導していく。

（5）その他の教育について

コミュニケーション活動だけでなく、様々な教育活動が充実するために、各教育担当が年間計画を立て、研修委員会で日程等の調整をして研修をすすめていく。

## 5 研究組織

## (1) 研究組織図



## (2) はたらき

## ・ 研修推進委員会

研修の企画・立案・調整・まとめを行い、全体研修会に提案する。

## ・ 各教育研修

各担当が企画・立案し、全体研修会に提案する。

## ・ 全体研修会

研修推進委員会で企画・立案されたものを審議・修正し、決定する。

また、全職員の共通理解の場として、授業研究や意見交換、現職教育に関わる発表・報告の場とする。

## ・ 学年部研修会

必要に応じ集まり、教材研究、教具開発、授業研究など具体的な活動を行う。

## ・ 学年研修

教材研究、教具開発、授業研究など具体的な活動を行う。

## ・ 毎月、第1・2・4週の水曜日は、原則的に研修会と位置付ける。